



勝田康則副町長が就任

任期満了による和泉一朗氏の副町長退任に伴い、6月定例会議での同意を得て、副町長に勝田康則氏を選任しました。

就任のご挨拶

先般六月二十二日の町議会において選任同意を賜り、七月一日付けで、奥出雲町副町長に就任いたしました。私にとつては、本当に身に余る光栄であると同時に、責任の重さに改めて身の引き締まる思いであります。私は、昭和二十三年十月生まれの六十二歳です。昭和四十二年三月に横田高校を卒業後、当時の雲南信用金庫に入庫。職員として三十二年、役員として十二年間勤め、六月二十八日の総代会をもって任期満了により退任し、この度ご縁がありまして奥出雲町の皆様方にお世話になることに

なりました。さて、今日の地方自治体にとりましては、社会経済状況の著しい変化や税収の落ち込み、又、三月十一日に発生した東日本大震災の影響を受け、極めて厳しい経済状況が続くと予想されます。このような中、私は、永年ソフテニスをしており、体力には自信がありますので、微力ではありますが、副町長として町長を補佐し、誠心誠意努力し、知恵を出し、汗をかき、町民の皆様方と一緒に「住みよい奥出雲町」を目指して頑張っていきたいと考えています。

皆様のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。

新しい農業委員決定

七月十九日任期満了に伴う、奥出雲町農業委員会委員一般選挙が七月五日、告示されました。

立候補の届出を七月五日の午後五時で締め切ったところ、三十人の届出があり、選挙による委員定数を超えなかったため、七月十日に予定されていた投票は行わず、

届出のあった三十人全員が当選、七月十日には当選証書が付与されました。

また、選任による委員(学識経験者)については、奥出雲町議会から二人が推薦関係団体(農済・改良区・JA)からは役員会での互選により三人の推薦を受けました。

選挙による委員【三十人】

- 高橋 正知(中村)
- 原田 勲(郡)
- 森山 富夫(三沢)
- 松崎 忠司(下横田)
- 糸原 隆史(稲原)
- 和泉 英富(上阿井)
- 大坂 茂(鴨倉)
- 宇田川光好(佐白)
- 戸屋 幸利(大馬木)
- 松原 武雄(高尾)
- 金倉 弘美(下阿井)
- 佐々木敏視(小馬木)

- 永瀬 博道(下阿井)
- 渡部 光義(上阿井)
- 藤原 純夫(小馬木)
- 内田 吉彦(三所)
- 恩田 嘉明(上三所)
- 朝鳴 栄人(大呂)
- 若槻 隆季(亀高)
- 佐藤 勉(亀高)
- 中林 孝(大谷)
- 藤原 一利(大馬木)
- 若槻 隆一(稲原)
- 嵐谷 勝義(竹崎)
- 梅木 重信(八川)
- 恩田 修(三成)



付与式の様子

- 浅野 昭憲(大呂)
- 吉田 勉(横田)
- 藤井 誠一(八代)
- 糸原 功(八川)
- 選任による委員【五人】
- 内田 正男(議会推薦)
- 村尾 明利(議会推薦)
- 佐伯 徳明(農済推薦)
- 和泉 芳邦(改良区推薦)
- 藤原 春吉(JA推薦)

「たたら製鉄・鉄穴流しと鉄山」

国の「重要文化的景観」選定を目指し 検討委員会を発足

国の「重要文化的景観」への選定に向け、たたら製鉄やこれにより形成された景観の保存計画を協議する「奥出雲町文化的景観調査検討委員会」の第一回委員会が六月十一日、役場横田庁舎で行われました。この「重要文化的景観」には、文化財保護法に基づき全

氏名	役職・委員名等	分野
中越 信和	広島大学大学院国際協力研究科教授	景観生態学
貞方 昇	山口大学教育学部教授	地理学
有馬毅一郎	島根大学教育学部名誉教授	郷土教育
相良 英輔	広島経済大学大学院経済学研究科教授	近世史
佐竹 昭	広島大学大学院総合科学研究科教授	環境史
木原 明	国選定保存技術保持者	玉鋼製造たたら吹き
井上 雅仁	しまね自然と環境財団 課長代理	植物生態学
角田 徳幸	島根県古代文化センター専門研究員	考古学
井上 典子	文化庁記念物課文化的景観担当調査官	
廣江 耕史	島根県教育庁文化財課調整監	

国で二十四箇所が選定されています。中国地方での選定は無いため、選定されると、中国地方で初選定となります。委員会のはじめに、井上町長から「国の重要文化的景観」という、とても高いハードルの選定を受けようとしているが、選定に向け活発な審議をお願いしたい」とあいさつがありました。

その後、委員長・副委員長の選出が行われ、委員長に広島大学大学院の中越信和教授、副委員長に山口大学教育学部の貞方昇教授が就任されました。

中越委員長から「たたら製鉄が形成する景観は、日本を代表する文化的景観。後世に残し活用していく遺産として、位置づけていきたい」とあいさつされ、議事に入りました。議事では文化庁の井上典子調査官が重要文化的景観について説明したほか、事務局からは調査区域や事業方針が示されました。調査区域には、



現地視察の様子(大原新田)

国内で唯一本格的な操業を行う「日刀保たたら」がある鳥上地区のほぼ全域を「重点調査区域」としたほか、櫻井家・糸原家付近を「たたら製鉄中核区域」、大原新田などの鉄穴流しの遺構を残す田園区域を「鉄穴流し水田の景観区域」としました。議事の後には、鳥上地区の「羽内谷鉾山鉄穴流し本場」や馬木地区の「大原新田」などの現地視察を行いました。今後は、委員会や現地調査を行い、平成二十四年度末の選定申請を目指します。

町道佐白北原線など6路線が竣工



テープカットの様子

尾原ダム周辺整備事業と関連事業により整備が進められた町道佐白北原線等、計六路線が完成し、六月二十六日には多くの来賓、施工業者、地元関係者など約八十人が出席し竣工式が行われました。竣工したのは、佐白北原線、伊賀武線、玉雲寺線、上布施線、八代三沢線の町道五路線と山林管理道岩田線の計六路線。事業期間は平成十六年度から平成二十二年年度の約七年間で総事業費は約二十四億円。佐白北原線は、町が直接施工したもので最も長い八十五分の橋梁が架けられたほか、玉雲寺線と上布施線は、五月に完成した自転車競技コースとしても利用できるように整備されています。

また、井上町長から、この道路の完成によりたくさんの方が行き交い、地域が一層活性化してほしいと祝辞を述べました。

佐白北原線でのテープカットの後、出席者はバスに乗って道路を走り、新しい道路の完成を祝いました。式典では、町道佐白北原線等道路改築促進協議会の赤名志郎会長がこの度完成した道路と、今後整備される佐白

今後は、来年竣工予定の尾原ダムや佐白地区交流拠点施設、五月に完成した自転車競技施設を結ぶ道路として、また、生活に根ざした道路として、地域に親しまれながら、地域の活性化につながっていくことが期待されます。